

<市町村探訪>

ワークショップによるまちづくり

人にやさしいまちづくり研究会 (大洗町)

本格的な高齢社会に向けて

大洗町は、茨城県の太平洋岸のほぼ中央にある人口約2万人の町です。太平洋に面し、穏やかな気候・風土の中で、観光と漁業の町として歴史を築いてきました。

大洗港や、マリントワー、大洗磯前神社といった自然に恵まれた名所のほか、最近では、大洗わくわく科学館や、アクアワールド茨城県大洗水族館など新たな賑わいの拠点も生まれています。

しかしその一方で、大洗町は、65歳以上の高齢人口比率が、全国平均を上回り21パーセントを超え、核家族化も進行しています。

また、夏以外のシーズンに大洗町を訪れる宿泊観光客の40%以上が61歳以上の高齢者であるというデータもあり、観光客の減少も課題になってきております。

このような状況のもと、大洗町ではまちづくりをバリアフリーの観点から進め、地域の活性化と観光振興に役立てるとともに、快適な生活環境整備を図るため、平成13年9月に「人にやさしいまちづくり研究会」を設置しました。



真摯な議論が交わされる部会の様子

環境点検とワークショップ

「人にやさしいまちづくり研究会」は、茨城大学地域総合研究所 斎藤 義則教授を委員長に、商店街部会と旅館街部会に分かれ、活動を続けてきました。

平成13年9月17日には地元の商店経営者や旅館関係者等による部会委員と茨城大学地域総合研究所のスタッフが一緒にまちを歩いてバリアフリーの環境点検を行いました。

環境点検では「道路の両わきに車や物がおかれている」、「道路と建物に段差がある」、「車椅子が通行しにくい」等の問題点が挙げられました。

それらを踏まえて旅館街ワークショップでは、ごみ収集、地区内公共駐車場、路上駐車、看板・商品などの歩道への放置と客の呼び込み、高齢者・障害者に対するイベント、神社の活用、海岸遊歩道の修復・活用、景観、PR、案内及びホスピタリティの向上の10分野について話し合いが行われました。



ワークショップの様様子

アクションプランカードを選択しながらまちの具体的なシナリオづくりを検討してゆく



<歩道・車道> 歩行者のための障害物除去、段差解消
 ・干物が並んでいると、外から来た人にとっては暑しいが、スペースを圧迫してしまっている。また、電柱が歩道の邪魔になっている。まちの方では地中化を県に働きかけた。
 ・客の呼び込みはめったにない。歩道が狭いところを平らにするのはいいが、早にすると大雨、高潮の時、建物の中の水が入ってくる可能性がある。
 ・車対応なので、車椅子の人も歩行者が歩きやすいようにしないと根本的に難しい。
 ・車道は歩行者が通れるくらいにし、歩道を広げるといい。その場合にちょっと車を停められるスポットがあると良い。
 ・車にも対応でき、障害者の人も安心して通れるようにできるといい。将来的に歩行者の中心の旅館街になれば最高。
 ・安心してゆっくりと歩いて店を見て回れるようになることと良い。行政で歩道のネットワークを考えておいたほうが良い(現在も考えていない)。
 ・路上駐車が、歩道をふさいでいる。

宮下旅館街



物が店の前に置いてあり、歩道が使えない。
 道がなくなる歩道が切れているところはつなげるしかない
 ゴミ置き場になっているからゴミを捨てる。ゴミ捨て場になっちゃう。
 歩道として繋がれば(道で繋がっている) 小道がある歩道に出る道が非常に分かりにくい。

旗が置いてあり邪魔
 ・松葉で歩きにくい。
 ・大洗は自然と共存しているので、山の影響を受けてしまう。

眺め良好
 ・大洗磯前神社の眺めが外に伝っていない。観光利用としても、どうクロスアップしていくかが大事。
 ・磯前神社の鳥居はみんなが見て「おっすい!」と喜んでいて、見物でありびっくりするところ。
 ・品性の高い神社と海の雰囲気もあって、どこか特別なものを感ずる。人に対する優しさみたいなものもその高さにつながる。



歩道として繋がれば(道で繋がっている) 小道がある歩道に出る道が非常に分かりにくい。
 海岸へのアプローチ
 ・観光客にとって表示案内が足りない
 ・スロープ

<ゴミ> 各旅館から出るゴミをどう処理するか?
 ・収集の時間が分かれれば、各旅館ごとで時間に合わせて出せ、短時間だけ置くことが可能。
 ・どこかにまとめて置くこと、すごいことになる。
 ・ゴミの量は増えるので、コスト的には半日でやっているはずなので収集時間を指定することはできないのでは?
 ・ゴミを歩道ではなく、敷地内に置いておくこと、しまっていると思われて回収してくれない。
 ・各旅館それぞれがゴミ処理場に直接搬入すれば、その方がベターではないか?(行政の立場から)
 ・現在、町が旅館等のゴミを収集してもらうなどの措置を採らねば、金銭的な問題が出てきてしまう。

ごみ、看板が歩道に歩道がゴミ置き場になっている。
 側溝の蓋、車椅子の車輪が挟まる可能性がある。
 汚い
 ・街灯がほとんどなく、夜は真っ暗



風景の良いところにベンチが欲しい。ちょっとした憩いの場ができる。
 フラッシュダンスの可能性がある。海岸線を歩行者のメインストリートにする。

ゴミが歩道をふさいでいる。衛生的でなく、景観も悪い。
 ・干物が道を塞いでいるが、表紙などもある。
 ・魚などがあつたが、歩道に置いてある看板も(町では歩道に干物・看板等を置かないというお願いはしていない)

雑草で道が塞がれている
 ・段差がある



風景の良いところにベンチが欲しい。ちょっとした憩いの場ができる。

<景観> 外観に統一感を与える
 ・潮風で建物がやられてしまっていて、景観を悪くしている。
 ・旅館や飲食店の統一感がない。
 ・海岸がゴミで散らかっていて、すごい汚い。
 ・干物やゴミを捨てたままにゴミが散らかっている状態が目に見える。
 ・各旅館のフェンスがバラバラで、きれいに統一するとかなり景観が良くなるのでは?
 ・干物は景色としては大洗らしくてすごく好感が持てる。

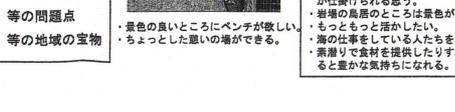
凡例
 ●:「ここは困る、改善したい」等の問題点
 ○:「ここはいいな、残したい」等の地域の宝物



風景の良いところにベンチが欲しい。ちょっとした憩いの場ができる。

雑草で道が塞がれている
 ・段差がある

凡例
 ●:「ここは困る、改善したい」等の問題点
 ○:「ここはいいな、残したい」等の地域の宝物



風景の良いところにベンチが欲しい。ちょっとした憩いの場ができる。

雑草で道が塞がれている
 ・段差がある

商店街・旅館街に分かれて環境点検マップが作成された。バリアフリーの観点からは歩道の段差や傾斜、電柱や看板による歩行の不自由、側溝のフタの破損等が指摘された。上は「宮下旅館街」のマップ。

また、商店街部会では 歩行者空間確保、 障害者・高齢者との交流、 商店街のにぎわい回復の3分野について、課題の整理と意見交換がなされました。

この研究会の大きな特色は、住民と行政、それから専門機関として茨城大学の地域総合研究所・都市計画研究室が入り、部会のメンバーによる徹底したワークショップ形式をとっていることです。

課題の整理からあるべき目標、それに向けての解決策の検討まで、すべてが行政にあらかじめ用意されているシナリオに沿ってではなく部会メンバーの話し合いの中で進められます。

例えば、商店街部会では障害者・高齢者・子供に対してやさしいまちにすることが商店の発展にどのようにつながっていくのかが共通の認識として捉えられるようになりました。

11月27日から30日にかけては「大洗町高齢者生活実態アンケート調査」を729名の高齢者に対して行い、生活の形態や関心事、商店街との関わり方を調べました。

真の「人にやさしいまちづくり」の実現に向けて

「人にやさしいまちづくり」とは、歩行者空間の確保や、段差の解消などハードなバリアフリーと、高齢者、障害者に対する偏見の除去、心のバリアフリーが一体となって初めて実現可能なことだと考えています。

今後も引き続き、関係者がこの研究会を通して、町の現状と実態に真摯に向き合い、率直な議論をすることで、大洗町ならではの地域資源を活用した誰にも優しい個性的なまちづくりの実現に取り組んでいきます。

(問い合わせ先：大洗町町長公室 029-267-5111)